● **予算特別委員会知事総括質疑での質問と答弁の大要をご紹介します。**

かみね史朗　議員（日本共産党　京都市右京区）

お年寄りの生活実態、介護・医療の負担増の実情について、知事の認識は

【かみね】日本共産党のかみね史朗です。私はまず最初に暮らしの問題で質問する。民主府政の会がとりくんだアンケートに、私の地元右京区では 2679 通の回答が寄せられた。びっしりと意見や要望が書き込まれており、A4・40 ページにもなる。そのなかで、一つ紹介したい。70 歳代の女性の意見だ。「昔は 70 歳になったら医者代が無料やったけど、自分が 70 歳になったら医者代が上るばかりで、年金は少なくなるし、死にたいです」。こんな悲しい気持ちにさせているいまの社会は、おかしいと思う。

　ところが、お年寄りへの負担はさらに目白押しだ。この 4 月から介護保険料が大幅に値上げされようとしている。医療費も 2 割ないし 3 割負担に値上げする法案が出ている。このままではお年寄りをいっそう苦しめることになる。そこで聞くが、お年寄りの生活実態と、介護・医療の負担増の実情について、知事はどのように認識しているか。私は、お年寄りが安心して暮らせるようにするために、重い負担をしいる医療制度の改悪に反対し、安心して医療が受けられる制度に充実するよう国に求めるべきだと思う。そして、府として府独自の医療費助成制度を充実し、介護保険料・利用料については負担軽減制度をつくるべきだと思うが、知事の答弁をもとめる。

【知事】私は、やっぱり、国と都道府県、市町村の役割分担、責任というものをしっかりと踏まえた上で行動していかなければならない。また国の方もそういう制度を決めるにあたっては、議員の皆さんの選挙を経て、その公約を経て、マニフェストでどういう風にやっていくかということはみんな書いてある。それを国民の皆さんが判断をして、国会で審議をしていくわけだから、そういったものを私たちは基本的に尊重する義務を負っている。ただ、その中にあって、地方公共団体の知事として出来る限り府民の実態というものを国に伝え、また地域の要請をしっかりと国に対して積極的に提案・要望しているということだ。

介護保険、国保、増税　雪だるま式に増加する高齢者の負担

【かみね】お年寄りの生活実態についてお聞きしたが、お答えがなかった。ここに 2006 年度に府内各市が予定している介護保険料の値上げ案をパネルにしてみた。各市とも、大幅な値上げだ。京都市と舞鶴市は一月 1,000 円あまりの値上げで、年間 1 万 2 千円の負担増となる。さらに、もう一つのパネルは、お年寄りの負担がどうなっていくか試算したもの。京都市在住の夫婦世帯で、夫の年金が年間 240 万円の場合だ。2,004 年は、国民健康保険料と夫婦の介護保険料合わせて 14 万 6 千円の負担。2005 年は所得税の老年者控除の廃止、国保料の値上げで 21 万 9 千円、約 7 万円負担が増えた。それが 2006 年には、住民税の非課税限度額の廃止によって段階的に住民税が増税となり、国民健康保険料も連動して値上げとなり、さらに介護保険料が月 1,000 円値上げされることになると、負担総額は 28 万円となり、去年と比べ 6 万 1 千円の負担増となる。おととしと比べると実に 13 万 4 千円も負担が増える。さらに 2007 年に 30 万円、2008 年に 33 万円と負担が雪だるま式に増えていく。これに医療費の値上げが重くのしかかってくる。こういう大変な負担増について、どのように考えているのか。

【知事】私たちはまさに、地方公共団体として、セーフティネットという立場から基本的な制度については提案をしていく。それと同時に、例えば福祉医療についても、ご存知のように京都府も医療助成をやっているし、今回私も障害者の負担については緩和施策を市町村と協力してやらせて頂いた。こうい

う形で、出来る限り府民の実態に沿った形で府民の暮らしを守るという観点で仕事を続けている。
【かみね】知事は、社会保障制度についても持続可能な制度にしなければならないと言ったが、お年寄り、府民の暮らしが持続可能にならないような現実になっている。そこをしっかり直視する必要があると思います。日本の社会保障は先進国といわれるヨーロッパと比べてもまだまだ立ち後れている。そういう意味ではさらに充実していくべきだし、国の負担を増やすよう求めるべきだ。医療費制度の改悪については、きっぱり知事は反対をすべきだと思う。そして当面、せめて介護保険料の負担については、京都府が、軽減するような制度をつくるべきだということを求めておく。

雇用・地域活性化につながる住宅改修助成制度の実現を

　さて、アンケートで 20 歳代の女性は、こんな声を上げている。「大手企業を支援する必要はない。自力でやっていけるんだから。中小企業に対してもっと支援すべきだと思う。それで雇用も増えるし、雇われる側も意欲がわくのではないでしょうか」。本当にそうだ思う。そこで、仕事が減っている建築関係の職人さんや業者のみなさんから、強い要望がだされている住宅改修助成、耐震工事への助成だ。地震に強い街づくりを進めるのはもちろん、予算の 20 倍の経済波及効果をもたらし、中小企業、零細業者への発注を促進し、地域活性化に役立っている。先日建築職人の労働組合のみなさんが府に要望したら、「融資で対応する」の答弁に終始した。では、17 年度の融資の実績はどれだけあるのか。
【土木建築部長】私どもは中小零細企業の仕事確保については、様々な観点で取り組んでいる。住宅対策においても、府営住宅総合活用事業などに取り組んでいるが、その中で、お尋ねの京都府住宅改良資金融資については、有利な民間住宅ローンが拡大する中で、17 年度の融資実績は 1 月末現在で 4 件となっているが、今後とも手続きを簡略にして利用しやすい制度となることを目指してすすめていく。
【かみね】4 件というのは、ほとんど府民から利用されていないということを示している。私は、この際、地震に強い街づくりや中小企業への支援を進めるためにも、京都府が思い切って、住宅改修助成・耐震化助成に踏み切るべきだ。例えば、5 億円の府の予算を組むと、市町村も同じ規模の予算を組んで頂けるとすれば、20 倍の経済波及効果だから、京都府全体で 200 億円の効果があるのではないか。そういう大きな効果をもたらすものなので、ぜひ検討するように求める。
【知事】20 倍というのは、やっぱりおかしいと思う。助成金の場合にはインセンシティブ効果をだし、それによって誘発された住宅改修の率を出してかけていくのが、それが経済効果だと思う。5%の補助で 20 倍になるというのは、ちょっと変だと思う。

深刻な府中北部の医師不足　知事は緊急対策を

【かみね】次に府中北部の医師確保の問題について、私、弥栄病院や与謝の海病院、舞鶴医療センター、舞鶴医師会などを訪問して直接話を伺ってきたが、医師不足は本当に深刻な事態だと実感している。弥栄病院の産婦人科の医師が退職予定で、この 4 月からお産ができなくなる。網野町に住む 20 歳代の女性は、「出産までの定期検査を含め、車で約 1 時間かかる豊岡病院に通うことになりました」こうおっしゃっている。「自分のまちで子どもを生むこともできないなんて悲しい。なぜこんなことになるのか。万一のことを考えると不安でならない」。京丹後市で年間 500 人の出産があったが、半分の 250 人は地元で出産できないというのは深刻だ。
　一方、舞鶴医療センターもこの 4 月から産婦人科医が確保できず、お産ができなくなり、北部の地域周産期母子医療センターの機能が果たせなくなる。府北部地域で安心して子どもを生み育てることができないということであり、府民の安心安全の危機に直面しているという問題だ。知事はこの事態をどの

ように認識しているのか。府は医師確保のためにどういう努力をしてきたのか明らかにしていただきたい。さらに弥栄病院や舞鶴医療センターでの産婦人科医確保は、大変急がれる。知事として、緊急対策として医師確保に動くべきではないか。

【知事】中北部地域の医師確保について、府民の安心安全の基盤である医療の中核を担う医師の確保を図ることは極めて重要だと思っている。私は、京都府は医師確保に対しては、府民の皆さんの理解によって、しっかりと取り組んできた府県だと思っている。まさに全国 8 カ所しかない公立医科大学の中でも最も古い歴史を有する府立医科大学を設置するとともに、その運営についても 18 年度当初予算でも 78 億円を投資し、その養成・確保に努めてきている。これが現在中北部地域においても 200 名を超える卒業生がやっている。全体にすると 1 万人を超える卒業生を生み出してきて、非常に京都というのは人口一人あたりの医師の多いところである。こういった努力を、まず府がしていることはご理解頂きたい。その上で、地域差が出てきたことに対して危惧をしており、今回の予算においても、医師バンクの設置、府立医科大学でしっかりと派遣の人数が確保できるような措置というシステムをつくり、二重の面で北部の市町村について支援をしていきたいと考えている。

府は医師不足の深刻な事態の認識があまりにも弱い

【かみね】緊急の医師確保について動くという答弁が無かったのは非常に残念だ。本府の保健医療計画をもってきたが、母子保健、周産期・小児医療の項目のところで、このように書いている。「安心して子どもを産み、健全に育てるために、母子保健・周産期・小児医療体制を整備することが必要になっている。」「周産期医療については、総合周産期母子医療センターや地域周産期母子医療センターの機能充実を図る」と書かれている。この計画が今、破綻に直面している。特に舞鶴医療センターに設置されている地域周産期母子医療センターの産婦人科医の確保は、この計画から言っても京都府が病院を支援し、京都府自身の責任でおこなうべきことではないか。そういう認識はないのか。

【知事】それは、みんなで努力していくことではないですか。それは、みんなで、舞鶴医療センターも頑張るし、市も頑張るし、そして京都府も頑張るという、そういうことでしょう。ですから、私のほうでは、まさに京都府自身であり、京都府だけが頑張るという話しになってくるとそれではないでしょう。私はみんなで頑張らないといけないと思っている。そのために何をしなければならないか、まさに、北部の周産期医療体制を確保していくために、府立の与謝の海病院を含む周産期医療二次病院等、周辺の医療機関、そして市町村が限定して、今その機能の維持を図るためにこれからとりくんでいく。

【かみね】医師不足の深刻な事態の認識が弱いと思う。保健福祉部の書面審査でも、10 万人当たりの産婦人科医は、中丹地域は全国水準を上回っている。そのなかで、一時的におこっている事態だと答弁があったが、とんでもない話だ。丹後地域で 250 件の出産ができなくなる。丹後でお産ができる医療機関にたった 2 人の産婦人科医しかいない。全国水準を上回っているどころではない。これは一時的な問題ではなく、構造的な問題だ。舞鶴でも、医療センターで 16 年度に 285 件の出産があった。周産期センターへの母体搬送が 33 件もあったが、受け皿がなくなる。ですから、舞鶴医師会の方にききましても、実に深刻に受け止めておられ、確実に医療体制が後退すると話されていた。そういう重大事態にもかかわらず、一時的な事態だといって、緊急に知事も医師確保に動かないというには、あまりに事態の認識が甘すぎるのではないか。

【知事】自分でかってに質問をこしらえて、答弁をこしらえて言われてると思うが、私は、だから、今年の予算で医師バンクを設置し、緊急対策として府立医科大学の枠を動員して、一所懸命頑張ると言っている。それなのに勝手に何も認識がないと言われるのは、もうちょっとよく答弁を聞いて頂かないと、ですからまさに、今回の予算をお願いしています。この予算にどうか賛成をして、それでお願いします。

【かみね】緊急対策をまず求めている、予算に提案している、これからの本格対策については今から述べます。緊急対策について知事が動こうとしないということについて、事態の認識が甘いのではないかと思う。新年度予算について、知事もお話しがあったが、医師確保対策は前進だと思うが、しかし府立医大の前期専攻医の産婦人科医の確保の状況は、総務部の書面審査で医大に聞きましたが、ゼロです。確保できていない。医師バンク制度についても、全国から募集するということだが、それを市町村や病院へ医師を紹介するということであり確実に派遣できる保障はない。そういう意味では、これでいいのかということも、私は感じている。思い切った、抜本的な医師確保対策も必要だということも申し上げたい。特に新聞報道を見ていると、三重県、兵庫県など 16 県が医学生を対象に地元で一定期間働くことを義務付けた「奨学金制度」を設けるとか、兵庫県、岡山県など 12 道県が全国から医師を公募して、一定期間採用する「職員枠での医師確保」策をすすめている。近畿でもそういう対策をやらざるをえない状況になっている。女性医師の確保のためには、パートタイム勤務の導入や出産・育児後に職場復帰するための教育制度を充実させるための特別な対策が必要ということが議論されている。こういう抜本対策に乗り出すべきではなか。こういう根本対策と、緊急に 250 人も丹後で出産ができないという事態をどうするのかということを私は聞いているが、お答えがないではないか。

【知事】緊急対策、緊急対策という言葉だけ踊っているが、何をしろというふうにいっているのか全然解らない。私は医師バンクを設置して、そこからきちっと医師を確保するシステムをつくって、緊急対策を講じたいと言っているし、それだけでは足りない、今、全国が医師不足だ。特に産婦人科・小児科は全国が医師不足で困っている。その中で、府立医大にも 10 人の枠を確保し、緊急対策を講じたいといっている。抜本的な行動とは、まさに私どもは、毎年 78 億円、他の県に比べて医師確保へ我々がどれだけ税金を投入しているかを、冷静に考えていたければわかると思う。緊急、緊急と言っているが県職員にすると言うが、京丹後も市立であり、弥栄も市立だ。それはどういう意味で言ってるのか、私は全然理解できない。都道府県だったら確保できて、京丹後市だったら医師は確保できないという意味か。

【かみね】医師確保について、知事の答弁を聞いていても、250 人が出産できない事態に、どうするかという点がお答えがなかったように私は受け止めざるをえなかった。知事の下では本当に、住民の福祉の向上ができるのか、私は本当に心配な気持ちを強くした。府民のくらしを守るあったかい府政を衣笠洋子さんを先頭に、つくりあげたい、この決意を申し上げて終わる。